

No. 16

県央・湘南の 環境と共生する都市づくり NEWS ○ 2006.10

● 新幹線新駅の実現をめざす、環境共生の都市づくり通信 ●



湘南ひらつか七夕まつり

目 次

- 2～3P 県央・湘南から世界に発信する ネットワークとリアル世界の「接続」をめざして
～慶應義塾大学 SFC 研究所長 國領二郎～
- 4～5P さがみ縦貫道路について ～国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所～
- 6P コラム「新駅に期待する」
- 7P 「環境と共生する住まいづくりを考えるフォーラム」が開催されました
～「かながわエコ・エネルギータウン友の会」からの発信～
- 8P 県央・湘南の魅力再発見／神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会



神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会

〔 神奈川県、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、相模原市、厚木市、伊勢原市、海老名市、座間市、
綾瀬市、寒川町、県市長会、県町村会、県商工会議所連合会、県商工会連合会 〕

県央・湘南から世界に発信する

慶應義塾湘南藤沢キャンパス（以下SFC）は、1990年の開設以来、未来を先導することを使命としてきた慶應義塾の中でも、とりわけ革新的な実験と実践を行なうキャンパスとして、日本の大学改革の範となってきました。特に情報化のけん引役としては大きな役割を演じてきました。学生全員がインターネットに触れられる環境をいち早く整備し、未来を体感しながら新しい社会のあり方について、提案してきました。

今ひとつの大きな特徴は「問題発見・問題解決」型の研究・教育を志して、象牙の塔に^{こも}籠ることなく、実社会の課題を実践的に取り組むことを通じて学びを深めていくことを標榜してきたことです。より具体的には、環境問題から、ネットワーク時代の企業戦略まで、実社会の問題に取り組むさまざまなプロジェクトを組織化し、大学院生から学部一年生までが参加しながら、具体的な解決方法の開発を行なっています。さらには生まれた知を現実の事業に結びつける取り組みも行なっています。本年3月には、キャンパス隣接地に、神奈川県、中小企業基盤整備機構、藤沢市と慶應義塾の四者共同事業として、慶應藤沢イノベーションビレッジというインキュベ-

ション施設を開設したところです。

そんなSFCが次の大きな課題として取り組んでいるのが、ネットワークとリアル世界の接続です。ここでの「リアル」にはいくつかの意味があります。

第一に「実社会」という意味のリアルです。情報技術は携帯電話や、パソコンなどを介して既に多彩な利便性を提供していますが、まだまだその潜在能力をフルに発揮しているとは言いがたく、老若男女が恩恵をこうむっているとは言いがたい状態です。本当はたとえば、ネットワークを在宅介護などに活用すれば、独居老人の健康状態などを、継続的に見守りながら、いざという時には救援の方が駆けつけられるようにできます。ほかにも、訪問看護師などがよりの確なケアを提供する上での貴重なデータを取ることでもできますし、医師、看護師、ケアスタッフなどがチームとして連携することを可能とします。そんなリアルな便益を社会に提供するためには、技術だけではなく、保険の制度的な検討や、ケアスタッフのストレスマネジメントまで、多面的な研究を結集させていかなければいけません。環境情報学部、総合政策学部、

看護医療学部が一箇所に結集しているSFCならばそれが可能です。その総合力をフルに発揮して、ネットワークの持つ可能性を人間の生活にリアルに反映させていきたいと思っています。

第二に「実空間や実物」という意味でのリアルです。ネットワークというと、時間や空間を超えて世界中を結びつけるイメージの方が強くて、実際それが大きなメリットで



慶應義塾湘南藤沢キャンパス

©慶應義塾

ネットワークとリアル世界の「接続」をめざして

慶應義塾大学SFC研究所長 國領二郎

はあるのですが、実際にネットワークを社会に役立てる活動をしていますと、ネットワークのバーチャルなつながりが強まるほど、現物との接点の重要性を感じるようになってきます。インターネットで検索をされている方はお分かりになると思いますが、いまやネットワークの上では、欲しい情報が世界中のコンピュータから検索が可能になっています。昔は外国に出張しないと取れなかったような外国政府の報告書を学部生が、数十秒で入手できてしまう世界です。ところが、それは今はコンピュータ内の情報だけにあてはまる話で、いざ実物になってしまうと、隣の部屋にあるものでさえどこにいったか分からなくなってしまいます。このようにリアル（実物）の世界はまだ分断されているのですが、いまSFCに研究センターがある電子タグなどを活用すると、モノがどこにあるかを追いかけることが可能になります。活用方法はさまざまです。たとえば、昨今安全確保が急務となっている食品なども、かつては流通経路を追いかけるのは至難のわざだったのですが、出荷時につけた電子タグを経路の途中で読んでいくことで、手間いらずで追いかけることができます。いざ、問題が発生した時には迅速に回収できるようにな

るだけでなく、問題が発生したときにその原因を解明する上で大きな役割を演じてくれるでしょう。電子タグがブランドハンドバックの模造品発見に実用化されていることなどから考えると、食品分野でも、より安全でおいしい食品の産地としてブランド化する取組みに活用する、などといったことも考えられるでしょう。

SFCはこのような、大学で生まれる知のメリットを、自らの立地する県央・湘南でリアルに実現させたいと思っています。環境や、高齢化など今後世界中が直面するであろう問題に、大学の知で具体的に解決策を見つけ出し、それをキャンパスの周辺で実現して「見せる」ことで世界にメッセージを送りたいと思っています。

特にツインシティは、SFCから約4kmのところであり、構想されている新幹線新駅や、湘南台とツインシティ間の交通システムができれば、人がごく自然に多く流れる導線上に位置しています。ツインシティを環境や、人間に優しく、経済的に活力のある街にするプロジェクトは、今のSFCにとっては非常に魅力的なテーマとなっています。大学が地域とともに世界に誇れる街づくりを行い、ともに世界に発信できたら大変幸せです。

國領 二郎 (こくりょう じろう)

慶應義塾大学総合政策学部教授兼政策・メディア研究科委員
慶應義塾大学SFC研究所長

1982年 東京大学経済学部経営学科卒業 日本電信電話公社入社
1992年 ハーバード大学経営学博士
1993年 慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授
2000年 同教授
2003年 慶應義塾大学環境情報学部教授
2005年 慶應義塾大学SFC研究所長
2006年 慶應義塾大学総合政策学部教授
現在に至る





さがみ縦貫道路

圏央道（さがみ縦貫道路）とは

都市の骨格を形成するとともに、交通渋滞の緩和を図り良好な生活空間を創造するため、3環状9放射の道路ネットワークの早期整備が求められています。

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏中心部から半径40km～60kmの3環状道路の一番外側に計画されている延長300kmの高規格幹線道路です。この圏央道は、都心からのびる放射道路を環状に連絡することにより

都心部の通過交通の排除と流入する交通を分散し、渋滞の緩和による走行時間の短縮や周辺地域の環境改善効果を担っています。

さがみ縦貫道路は、この圏央道のうち神奈川県中央部に位置します。

さがみ縦貫道路の整備により、神奈川県中央部の慢性的な渋滞の解消や地域の環境改善、高速道路へのアクセス向上など様々な効果が期待できます。



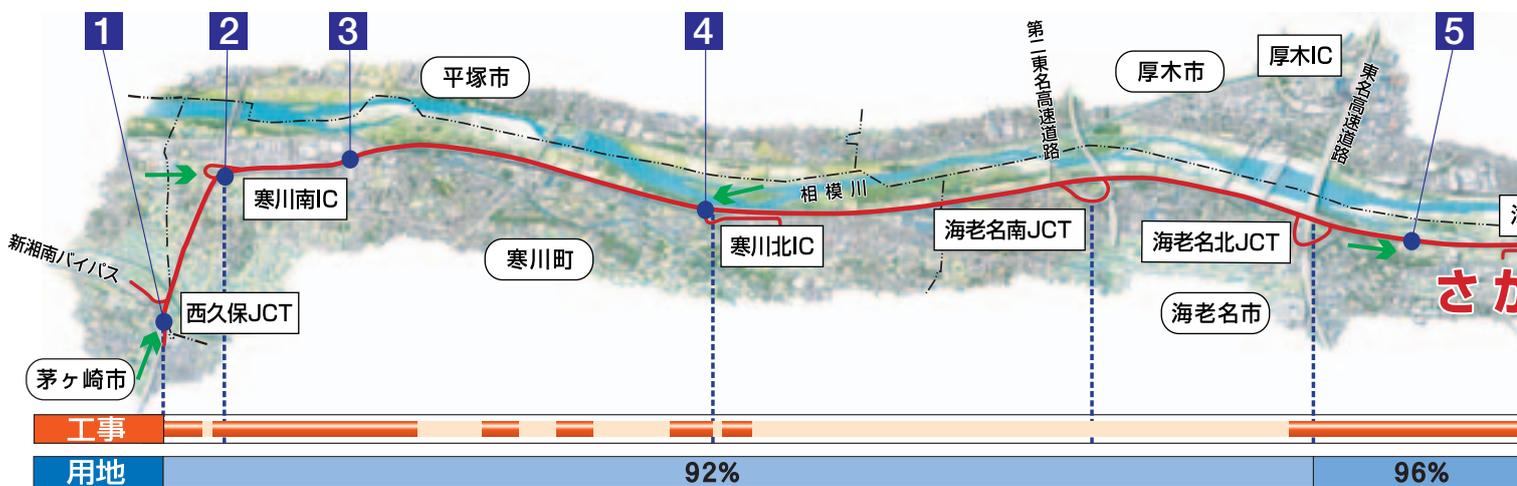
さがみ縦貫道路



- （西久保JCT～相模原IC）
- 西久保JCT～海老名北JCT
 - 海老名北JCT～海老名北IC
 - 海老名北IC～相模原ICは

さがみ縦貫道路の現在

さがみ縦貫道路工事の新着情報をお伝えします。



1 西久保JCT (仮称)の橋梁工事

2 寒川南IC (仮称)付近

3 寒川町一之宮付近

4 寒川北IC (仮称)の橋脚工事

5 海老名市海老名運動公園付近

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

いつ開通するの？

圏央道では「目標宣言プロジェクト」を開始しました。これは事業のおかれている状況や完成目標を広く公表するとともに、毎年度の事業進捗目標とその達成度を併せて公表し事業進捗管理を行っていくものです。（なお、開通目標には不確定な要素もあることから、その達成条件も併せて公表しています。）

平成21年度開通目標

新湘南バイパス

の開通予定は以下のとおりです。

CTは平成22年度

ICは平成21年度

本平成22年度

さがみ縦貫道路が開通するとどうなるの？

CO₂排出量が削減されます。

圏央道が開通することによる渋滞緩和などの効果は、環境を改善することにもつながります。

さがみ縦貫道路の整備が進み、東名高速道路と中央自動車道を連絡するようになると、環状道路の機能を発揮します。それにより交通の流れが円滑になることから地域の環境改善などにも寄与します。

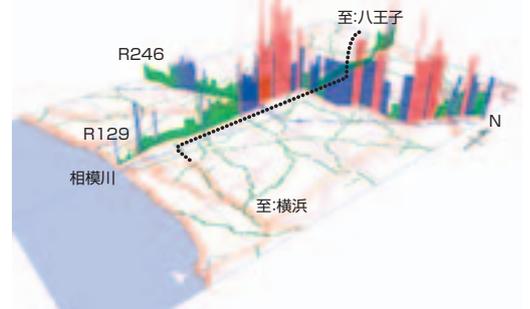
例えば、東名高速道路～中央自動車道間が開通すれば、**温室効果ガス（CO₂）の排出量を9.7万t-CO₂/年削減**につながります。

明治神宮の面積（72ha）の約127倍に相当する森林の年間CO₂吸収量と同等

交通問題を改善します。

現在慢性的な渋滞が発生している国道129号と246号周辺地域。さがみ縦貫道路の整備により、渋滞の緩和が期待されています。

●渋滞損失マップ



※高さが渋滞損失時間の大きさを表しています。

「道路見える化計画」を進めています。

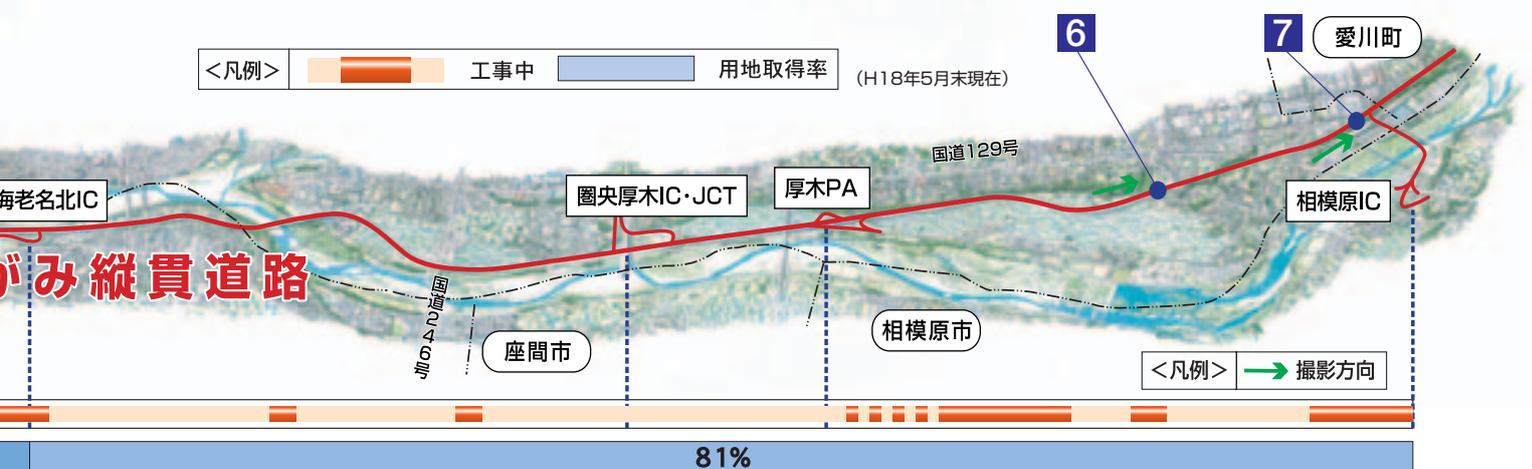


見える化とは、課題を「見える」ようにし、最適なやり方で重点的に解決すること。課題のデータやそれに基づいた解決策とその結果を、利用者、納税者の皆さんに「見える化」し、効果的な道路行政を進める計画です。

「道路見える化計画」に基づく各種プロジェクトについてはホームページをご覧ください。

「よここナビ」で検索：

URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/>



コラム

新駅に期待する

このコーナーでは、県央・湘南都市圏の首長や団体の代表者の方々に新駅等への期待をお話いただきます。



休日に人出で賑わう海老名中央公園

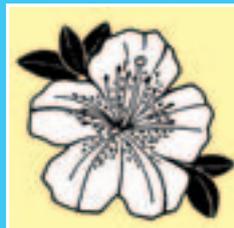
海老名市は、JR相模線、小田急小田原線、相模鉄道本線の3線が結節する鉄道交通の要衝地として発展してまいりました。近年では、海老名駅周辺地区に大規模商業施設や高層の集合住宅の建設が進み新市街地が形成され、県央のターミナル駅としての新たな賑わいを呈しているところです。

また、県央と湘南を結ぶさがみ縦貫道路の整備では、西久保ジャンクションから相模原インターチェンジまでの区間を平成22年度開通目標として工事が進んでおり、また、東名高速道路とのジャンクションから海老名北インターチェンジの区間は平成21年度の供用開始を目標とされています。

このように「神奈川力構想・プロジェクト51」における県央・湘南都市圏の交流連携を支える南北方向の交通軸の充実が図られていく中、寒川町倉見地区への東海道新幹線新駅誘致及びツインシティ整備の実現による「南のゲート」の形成は、JR相模線沿線自治体と神奈川県等で構成する相模線複線化等促進期成同盟会において目指している相模線複線化の実現にも繋がるものであり、将来の県央・湘南都市圏全体の活性化にとっても非常に大切なファクターであると考えております。また、平成17年に行われた国勢調査では、全国レベルで人口増加率が戦後最低となり、平成16年の推計人口よりも2万人下回るなど、全国的な人口減時代を迎えたことが顕著になってまいりました。そのような状況の中、神奈川県は人口増加数、人口増加率とも東京都に次いで全国で2位となっていることから、地域のポテンシャルは全国的にも非常に高いものがあります。新幹線新駅誘致の実現は、県央・湘南地区の発展だけではなく、全県的な発展につながるものことから、大いに期待しているところであり、あわせて県央の交通結節点として海老名市が果たす役割の重要性も認識しているところです。

今後とも、神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会並びに近隣市町との連携を図り、新幹線新駅の誘致活動を促進すると共に、ツインシティ整備の早期実現を願っております。

海老名市の木・花・鳥



海老名市 内野 優 市長



プロフィール

うちの まさる
昭和30年生まれ
昭和58年10月から海老名市議会議員4期
平成15年12月から海老名市長、現在に至る。
役職として、神奈川県相模川左岸土地改良区理事など。

「環境と共生する住まいづくりを考えるフォーラム」が開催されました ～「かながわエコ・エネルギータウン友の会」からの発信～



県では、環境共生モデル都市「ツインシティ」の都市づくりに、民間企業が持つ新しい発想や技術・情報を活かしていくことを目的として、企業・団体グループと県が協働で研究を行っております。この企業グループの1つを中心とした「かながわエコ・エネルギータウン研究会（愛称 KEYプロジェクト研究会）」では、県民・研究会・行政の三者協働による組織「かながわエコ・エネルギータウン友の会（愛称 KEYプロジェクト友の会）」を平成17年5月に設立し、環境性と経済性を両立した災害に強い住宅街区「かながわエコ・エネルギータウン」の実現をめざした取組みを進めています。

本年5月27日には、この取組みを県民の皆様にご紹介するため、「環境と共生する住まいづくりを考えるフォーラム」を開催し、友の会のコーディネーターである横浜国立大学大学院の佐土原聡教授より、「環境と共生する住まいづくり」と題して講演をいただくとともに、友の会会員から、この1年間の活動成果である提案書「環境と共生する未来型コミュニティタウン」を発表しました。

研究会では今後、この検討成果を活かして、平成18年度にモデル街区の具体化を図っていく予定です。

● 「かながわエコ・エネルギータウン」とは・・・？

10戸～30戸程度の戸建て住宅が集まった街区において、燃料電池と太陽光発電システムを街区毎に集約して設置し一元管理することで、環境性と経済性を両立するとともに災害に強い戸建て住宅街区とするものです。

太陽光という自然エネルギーの利用とコージェネレーションシステム（燃料電池）による効率的なエネルギー供給を街区毎に一元管理することにより、現行システム（一般的な住宅向けエネルギー需給システム）に比べ、環境負荷の低減や光熱費の削減など、大きなメリットを有することになります。



● 「かながわエコ・エネルギータウン友の会」とは・・・？

「県民」、「研究会」と「行政」の三者協働により、かながわエコ・エネルギータウンの実現をめざす組織で、住まい手の立場からプロジェクトに対し提案を行うため設立されました。

具体的な活動としては、テーマに沿った講師を招いた勉強会や、新エネルギーを導入した住宅団地の見学会の開催などを通じて、実現に向けた検討を進めるとともに、県民等への広報を行っています。プロジェクトに興味のある方であれば、個人・法人を問わず入会可能で、入会金及び会費は無料です（見学会バス代等の実費はその都度必要です）。



プロジェクトの詳細や、友の会への入会申込については、ホームページをご覧ください。
かながわエコ・エネルギータウン友の会ホームページ <http://www.keyproject.jp/>

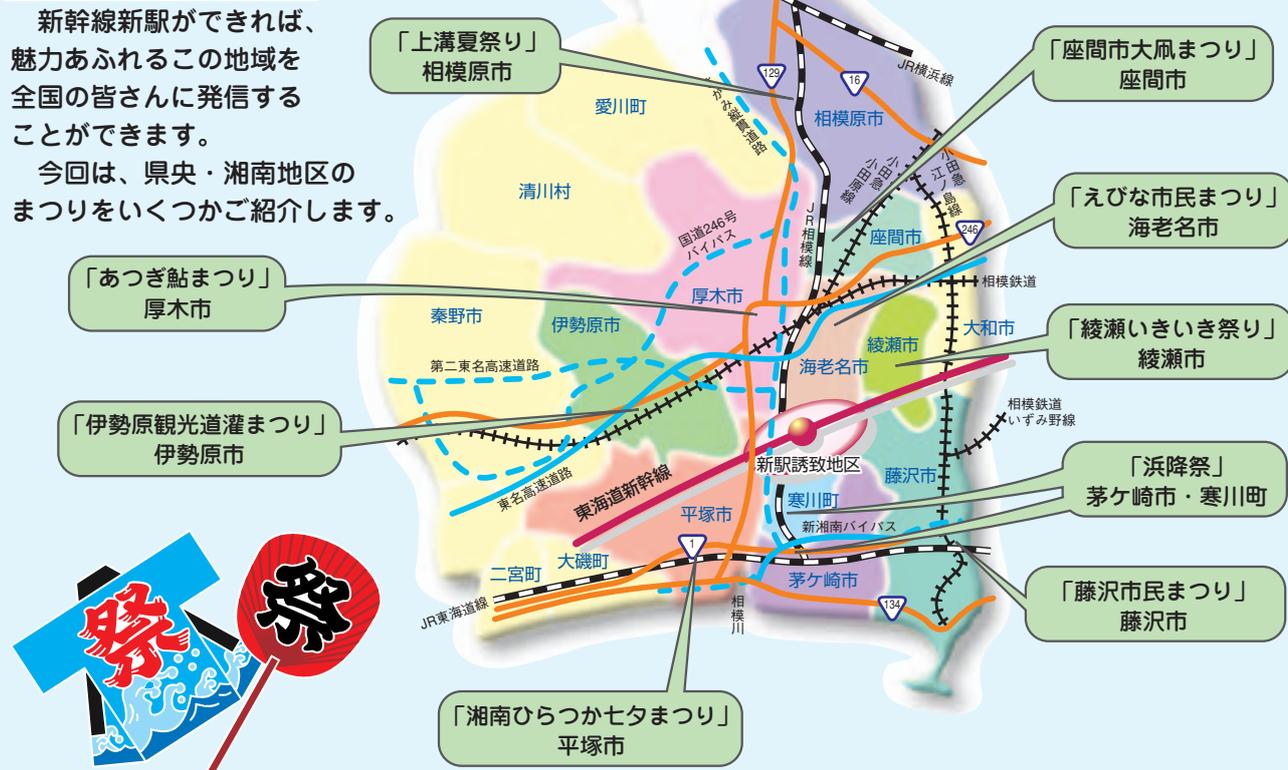
協働研究と、「かながわエコ・エネルギータウン」についてのお問い合わせは・・・

神奈川県 県土整備部 県土整備総務課 環境共生都市整備担当
電話 045-210-6036 (ダイヤルイン) E-mail kankyou-kyousei.50@pref.kanagawa.jp
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/kankyou-kyousei/>

県央・湘南の魅力再発見！

新幹線新駅ができれば、魅力あふれるこの地域を全国の皆さんに発信することができます。

今回は、県央・湘南地区のまつりをいくつかご紹介します。



神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会について

「神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会（平成8年5月発足）」では、寒川町倉見地区への東海道新幹線新駅の誘致活動を行っています。

去る5月11日、同盟会の平成18年度総会を開催し、新駅誘致と、ツインシティ整備の取組みを引き続き積極的に推進していくことが確認されました。さらに、同日の総会開催後に、新幹線新駅の寒川町倉見地区への設置について、JR東海に対し要望活動を行いました。

11月16日には、茅ヶ崎市民文化会館で県民フォーラムを開催します。ここでは、神奈川県松沢知事と、今回、本誌に寄稿いただいた慶應義塾大学の國領二郎教授や、経済団体の方々によるパネルディスカッション等を予定しています。

県・市町担当窓口

神奈川県	県土整備部県土整備総務課	045-210-6038(直)
平塚市	都市整備部都市整備課	0463-23-1111(代)
藤沢市	計画建築部都市計画課	0466-25-1111(代)
茅ヶ崎市	都市部都市政策課	0467-82-1111(代)
相模原市	都市部都市交通計画課	042-754-1111(代)
厚木市	市政企画部広域政策課	046-223-1511(代)
伊勢原市	市長公室企画調整課	0463-94-4711(代)
海老名市	まちづくり部都市計画課	046-231-2111(代)
座間市	企画財政部政策課	046-255-1111(代)
綾瀬市	企画部企画課	0467-77-1111(代)
寒川町	都市部新幹線新駅対策課	0467-74-1111(代)

東海道新幹線新駅の誘致活動については、期成同盟会のホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/shin-eki/>

発行

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会〔事務局：神奈川県県土整備部県土整備総務課〕
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
電話：045-210-6038 ファックス：045-210-8879
E-mail：kankyō-kyousei.50@pref.kanagawa.jp

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています